

# 「家がいいね」 第108号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2013. 5. 9

山々が萌える中に浮かび上がる藤の花や桐の花などの紫色は、心を和(なご)ませます。家紋にも使われる花々ですが、紫色とは印象的ですね。



自分の音が無くてはサビシイ、現代人？

イヤホンを着ける人が多い。近くでは我が娘がi-PODなるものを常用におよぶ。この娘に話そうと思うが、こちらの言葉を聞いているやらいないやら、話しかけてもいいものか戸惑ってしまう。どうやら、何か聴きたい音楽を隙間なく詰めていないとサビシイようだ。同時に聴きたくない者を拒絶する効果も、都合よく有るようだ。私は電車の中などでも、幾つもの孤独がイヤホンを着けているような錯覚に囚われる。その聴く曲にも電子構成音の「人工歌姫」が使われ人気とのこと。世界にはあらゆる自然の音が満ちている。それに耳を澄ますことも、聞き流すことも人にはできない能力があると思うが、さてイヤホンとは悲しい。

「闇」や「暗い」に、なぜ「音」がある？

白川静さんの「字統」が疑問を解いてくれました。「神聖なる闇」の中で神へ問い、それに対する神の音ない(訪れ)があらわれることを闇という。「神は姿の見えない幽暗の時に『音つれ』る。暗は古くは闇と書かれ、それが分化した字である」式年遷宮の焦点「遷御の儀」も灯り一つない闇の中で執り行なわれるとのこと。人を超えた存在への接近も、視覚に頼ることを捨て無為の魂で音を聴くのかと想います。  
**おとない↓おとつれ↓訪れ**  
が、訪問という言葉に繋がっているのも驚きです。在宅に訪問するのは、問いと訪れがある世界と気付かされました。



人の魂は、蝶になるとか



連休の後半、熊野市の奥、北山川へ車で日帰り。ここが観光いかだ下りの出発点らしいです。山また山、昔の筏師の仕事場です。人間は何処にでも住んで来たのだなあと想います。2011年9月の、大水害の痕跡が、あちこちに残っていました。この山地に降った雨水は河口に向かうしかなかったのです。帰路の広大な七里御浜も、熊野でした。

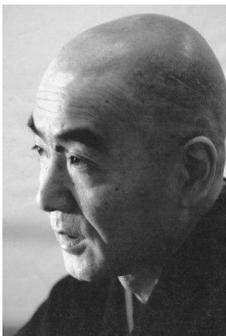
6月19日(水)は、臨時休診します

みえ生と死を考える市民の会 講演会

講師 玄侑宗久 氏作家、福島県 福聚寺住職

むしよつじの みち

## 無生死の道



午後2時半 受付  
午後3時〜5時 講演

(オープニング 鈴鹿混声合唱団)

会場 三重県総合文化センター 中ホール

震災のような大自然の前に、あまりにも小さい私たちの生と死をどのように考え直すか、福島の現場から、玄侑さんが語って頂けると想います。チケットは当院にもあります。



自宅での人生を  
最期まで支援します

〒516-0805  
三重県伊勢市御園町高向 927  
電話 0596-20-8104  
ファクス 0596-20-8105  
メール [homecare@kr.tcp-ip.or.jp](mailto:homecare@kr.tcp-ip.or.jp)  
ホームページ <http://isezaitaku.com>

お詫び…105〜107号表紙を2013年に訂正を